

人 チーム 制度



男性版 育休取得の体験談

日本工営(株) ひとことまさゆき 一言正之さん

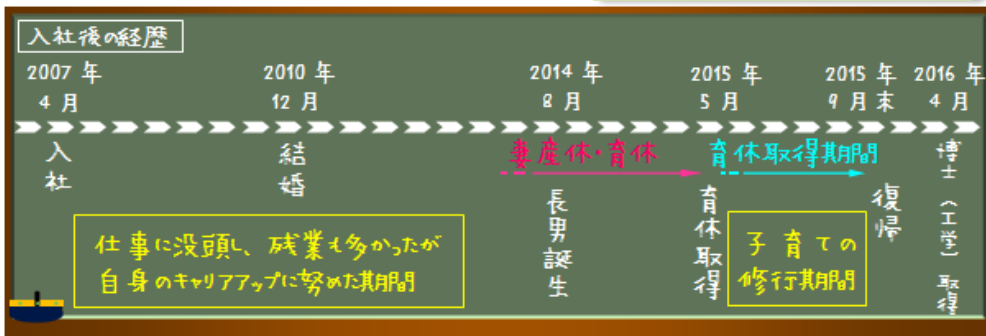
今回ご紹介するのは日本工営(株)中央研究所の一言正之さん。2010年に同じ会社で働く奥様とご結婚され、ご長男誕生後に奥様が育休制度を活用されたのち、ご自身も育休制度を活用され、仕事も子育ても夫婦協同で仲良く取り組んでおられます。

これまでの経歴を簡単に教えてください。

大学院では地球システム工学を専攻し、実験や数値シミュレーションを用いて、地下水の浸透流解析の研究に従事していました。その後、海外での開発に関わる仕事がしたく、日本工営(株)に入社しました。入社後は中央研究所に所属し、国内・国外の河川・砂防・海岸など幅広い分野で経験を積んできました。現在は、河川の洪水予測や砂防に関する仕事に取り組む一方で、人工知能や機械学習などの研究開発にもチャレンジしています。

プロフィール

氏名 : 一言 正之 (34)
 所属 : 日本工営(株)
 中央研究所総合技術開発部
 勤続年数 : 10年目
 資格 : 技術士
 (総合技術監理-建設)
 (建設部門)
 博士(工学)ほか
 居住地 : 茨城県つくばみらい市
 家族構成 : 同じ会社の妻 (32) /



奥様が育休を取得されたのち、一言さんが育休制度を取得されたとのことですが、そのきっかけは何でしたか?

妻も自分と同じ立場でこれまで仕事をしてきているので、それぞれのキャリアを考え、結婚する前から交代で取得する予定でした。仕事も子育ても常に対等な立場でやっていくというスタンスを現在も続けています。

育休制度を取得したときや育休中の状況を教えてください。

かねてから上司や周囲にも相談し続けたこともあり、取得することに反対の声はなく、早く承諾していただきました。取得中はある程度育児に専念できたものの、客先からの問い合わせのメールへの対応などは行っていました。

育休制度について、良かった点や改善してほしい点などありますか?

制度については、取得手続き等が容易であり、内容も非常に充実していると思います。ただし、取得中のキャリアダウンがネックとならないように、個人のキャリアとの両立のことも考えて欲しいと思いました。具体的には、育休中の臨時出勤や学会活動などが認められるような柔軟な運用がなされて欲しいと思っています。

復帰後、個人の仕事への姿勢や職場の状況に変化はありましたか?

以前は夜遅くまで頑張っていました。育休取得後の現在も送り迎えなどの家事・育児で作業時間が限られるようになりました。そのため、通勤時間に車内でハンズフリー通話を使って打ち合わせをしたり、社内打合せの時間を削減するなど、仕事の効率化をより一層考えるようになりました。仕事量は以前に比べ減った気がしますが、「量」より「質」を高めて貢献していきたいと思っています。

家事や育児の分担など、私生活の面での変化もありましたか?

とにかく規則正しくなりました。また、子供が生まれる前は外食することも多く、料理もあまり得意ではありませんでしたが、育休中に家事・育児のスキルも身に付き、一人でも子供の面倒を見られるようになったと思います。最初は子供と二人で外出するのも緊張していたくらいなので、そういった意味では、育休体験は私の人生を豊かにしてくれたと感じています。

最後に、建コンで働く皆さんに伝えたいことはありますか?

まだまだ育休制度を取得した事例は少ないと思いますし、制度もみんなでもっと使いやすいものにして行かなければならないと思っています。

また、これからの業界を担う若手技術者へは、今のうちがむしゃらになって仕事のキャリアを積んで欲しいですね。キャリアを積んだのち、育児にもチャレンジしていく男性が増えることを期待しています!大変とは思いますが、笑

